

## アタナシオ信經

この信經は三位一体主日に、使徒信經にかえて歌いまたは唱える。他の日にも用いることができる。

救われんと願う者は――聖公会の信仰箇条を奉ずること最も肝要なり

この信仰箇条を乱すことなく、全く守る者にあらざれば――必ず代々限りなく滅ぶべし  
聖公会の信仰箇条は次のごとし――唯一の神に三位あり、三位は一体なり

三位を乱さず――一体を分かつたずして拝むべきことなり

父一体、子一体――聖靈一体なり

されづ父も子も聖靈も神たることは一つなり――その栄光ひとしく、みいつ限りなし

父のかくあるごとく、子もかくあり――聖靈もかくあるなり

父も造られず、子も造られず――聖靈も造られず

父も量りなく、子も量りなく――聖靈も量りなし

父も限りなく、子も限りなく――聖靈も限りなし

されど限りなき者は三つにあらず――ただ一つなり

また造られざる者は三つにあらず、量りなき者は三つにあらず――造られざる者も一つ、量りなき者も一つなり

父も全能、子も全能――聖靈も全能なり

されど全能なるものは三つにあらず――ただ一つなり

父も神、子も神――聖靈も神なり

されど三つの神にあらず――ただ一つの神なり

父も主、子も主聖靈も主なり

されど三つの主にあらず――ただ一つの主なり

キリスト教の真理によれば三位をおの神と信認し主と信認せざるを得ず

聖公会の教理には――三つの主ありと言うことを禁ず

父は、たれよりも成りたるにあらず――造られず、生まれざるなり

子はただ父よりの者にして、成りたるにあらず――造られず、生まれたるなり

聖靈は父と子よりの者にして、成りたるにあらず――造られず、生まれず、ただいずるなり

一つの父あり、三つの父あらず、一つの子あり、三つの子あらず――一つの聖靈あり、三つの聖靈あらず

この三位は前後あることなく――また大小あることなし

三位は皆ともに限りなく――ともに等しきなり

さればすべてのことにおいて前に言えるごとく、一体に三位あり――三位は一体なりとして拝むべし

救われんと願うものは――三位一体を、かくのごとく思わざるべからず

また限りなき救いに至らんがために――主イエスキリストの肉体となりたまひしことをも、まことに信ずるは肝要なり

それ正しき信仰は――神の子・イエスキリストの、神また人たるを信じて言い表わす

ことなり

神とは父の性にてよらず世のさきに生まれ 一人とは母の性にてこの世に生まれたまえることなり

主は全き神・全き人にして 一 霊魂と肉体とを備えたまえり

その神性によれば父と等しく 一 その人性によれば父に劣る

神また人なりといえども二つにあらず 一 ただ一つのキリストなり

その一つなるは、神性を肉体に変ぜしにあらず 一 神に人性を取りたまえるなり

全く一つなり 一 これ両性を混ぜしによらず、ただ一つなるによる

霊魂と肉体にて一つの人なるごとく 一 神と人にて一つのキリストなり

主はわれらを救わんがために苦しみを受け、よみにくだり 一 三日目に死にし者のうち

よりよみがえり

天に昇り、父の右に座したまえり 一 かしこよりきたりて生ける人と死ねる人をさばき

たまわん

そのきたりたもうとき、すべての人、そのからだをもってよみがえり 一 おのおのその

行ないをのぶべし

善を行ないしものは限りなき命に入り 一 悪を行ないし者は限りなき火に入るべし

これ聖公会の信仰箇条なり 一 まことに、これを確信する者にあらざれば救われること

を得じ

父と子と英霊に 一 栄光あれ

始めにあり、今あり 一 世々限りなくあるなり アーメン